

# 国際フォーカシング研究所

1979年からユージン・T・ジェンドリンの業績に基づく

個人に関する懸念に対処する手順

国際リーダーシップ評議会

2018年10月

国際フォーカシング研究所 (TIFI) は常にコーディネーター、トレーニングコーディネーター (CiT/CNT)、認定フォーカシングプロフェッショナル (CFP/トレーナー)、国際リーダーシップ評議会 (ILC)、理事会、事務局、研究所で指導的役割にある人々を信頼するシステムで運営されています。仮に研究所のメンバーがある人に対して懸念を抱き、私たちに行動を起こすように依頼するのなら、私たちはそれに耳を傾け、適切に対応する責任があると認識しているので、それは問題になります。TIFI で認定されているか、リーダーシップを発揮している人たちは世界で研究所を代表する立場なので、私たちが彼らを信頼していることが重要です。彼らは皆、どんな懸念にも研究所が対処する方法に信頼を置いているに違いありません。この方針とは、すべての人々の人間性と権利を尊重し、個人と集団を守るあり方で将来を見据え、すべての人が法を遵守しながら、自由と高い倫理基準を維持する方法で、一人ひとりをフォーカシング的に扱うプロセスを提供することであり、それが私たちの願いです。

これは TIFI のメンバーである人が、認定フォーカシングプロフェッショナル (CFP/トレーナー)、コーディネーター、トレーニングコーディネーター、TIFI スタッフ、理事、国際リーダーシップ評議員についての懸念を私たちに伝えるとき、国際フォーカシング研究所の対応方針です。

**重要な注意：**私たちはすべての規則の上にある、プロセスと相互作用（インタラクション）の重要性を認識しています。プロセスと相互作用が第一であることを知っているのも、これは厳密な規則としてではなく、「推進（キャリイng フォワード）の一つの方法」という取っ手（ハンドル）として理解されるべきです。また、私たちのアプローチをさらに明確に知りたい方はジェンドリンの論文『プロセス倫理と政治的問題』をお読みになることをお勧めします。私たちには「倫理綱領」はありません。代わりにプロセスがあります。

この文書で使用されている用語：

ED：事務局長

ILC：国際リーダーシップ評議会

TIFI: 国際フォーカシング研究所

TIFI の当事者：問題提起者が懸念を抱く、TIFI でリーダーの役割を担う人。この人は認定フォーカシングトレーナー、コーディネーター、トレーニングコーディネーター、理事会や ILC のメンバー、TIFI のスタッフである可能性があります。

問題提起者：懸念を伝え、TIFI に行動を起こすように要求した人。

TIFI 担当者：問題提起者が最初に懸念を伝えた人

ステップ1：誰かが TIFI に懸念を伝える

誰か（問題提起者）が国際リーダーシップ評議会（ILC）のメンバーか事務局長（ED）に連絡をとり、TIFIの当事者についての懸念を伝え、研究所に懸念について行動を起こしてほしいと依頼します。事務局長あるいは国際リーダーシップ評議会のメンバーは「TIFI 担当者」として、問い合わせを受けます。もし、その懸念が国際リーダーシップ評議会のメンバーについてであれば、そのメンバーは担当者を辞退し、もしその懸念が事務局長についてであれば、彼女は担当者を辞退します。

**ステップ2**：TIFI 担当者は、懸念を受け止めたことを伝え、おそらく最初の対話をするため、一週間以内に問題提起者に応答します。苦情は以下の3つのカテゴリーに分類され、それぞれ異なる対応が必要とされると予想します。

#### A) 調停を要求する個人的な対立

TIFI 担当者が、それが主に二人の個人間の個人的な対立であり、組織的な対応を請け合うものではないと判断した場合、TIFI 担当者は適切な調停者を見つけるため、個人を助ける相応の努力をします。

#### B) 組織的な対応を求める問題

このプロセスは、懸念が組織的な対応に値するほど深刻であると判断されたが、危機的対応を必要とするほど深刻ではない場合に生じます。この決定は、当事者の感情の強さ、あるいは懸念の性質、あるいは他の理由のためになされるかもしれません。この場合、次のように進めます。

TIFI 担当者が国際リーダーシップ評議会に状況を説明します。

機密保持の必要性は詳細の必要性とのバランスをとります。国際リーダーシップ評議会は、どのメンバーが「助けとなる聴き手」として機能できるかを、通常はスカイプまたはズームで、問題提起者との「傾聴的対話」により、決定します。問題提起者との密接な協力の下、事務局長の出席が適切であるかどうか、および／または、フォーカシングコミュニティの別の信頼できるメンバーを参加させることが適切かどうか決定されます。TIFI 担当者は、これが賢明で支援的なグループのように感じられるかを問題提起者に確認します。問題提起者は支えになる友人を会話に招くことを希望するかもしれません。

この過程で、国際リーダーシップ評議会のメンバーと事務局長は、TIFI の当事者が必ずしも過ちを犯していないことを意識するでしょう。最大の注意は、問題提起者の権利と同様に TIFI の当事者の権利に配慮することです。通常、プロセスのこの時点で、研究所は問題提起者から話を聞く機会を設けます。この初期の段階では、問題提起者が話を聞いてもらえたことによって満足することがあるので、懸念があることを TIFI の当事者に伝えることは必要ではありません。彼らの懸念が傾聴的対話以上のものを必要としない可能性があります。

TIFI が傾聴的対話を呼びかけ、2週間以内に問題提起者からの返事がない場合、TIFI 担当者は再度連絡をとることに注意してください。最初の申し出から1ヶ月以内に、問題提起者が私たちとの傾聴的対話を予定しない場合、彼らは懸念を考え直したと結論を下し、問題は終了したと考えます。

問題提起者が1ヶ月以内に応答する場合、1週間以内に TIFI 担当者は傾聴的対話のための相互に可能な時間を設定します。通常、TIFI の当事者は傾聴的対話に加わりませんが、それが全員によって最良の行動方針であると決定された場合、加わる可能性があります。

## 傾聴的対話

傾聴的対話への参加者に選ばれた人は、フォーカシングの方法で問題提起者の話を聞き、次の正しいステップを模索します。通常、研究所は、問題提起者が TIFI の当事者と直接、懸念を解決するよう促します。このため、TIFI の 1 人か 2 人の代表者が、一緒に問題提起者と TIFI の当事者と面会することを提案することがよくあります。

傾聴的対話の間に合意がなされた場合、適切な人（傾聴的対話の間に決定された人）が TIFI の当事者に連絡を取り、調停の会話に参加してもらいます。TIFI の当事者も傾聴的対話を求め、必要とするかもしれず、もしそうであれば、それが設定されるでしょう。

## 必要な次のステップ

リスニングのプロセスの後、次のステップは全体の状況によります。目標は、法の要件の範囲内で、常に倫理的で思いやりのある、フォーカシングの方法で行動することです。

いずれにせよ、重大な懸念があると判断された場合、その問題は理事会の注意を引くことになります。

## C) 危機対応を要求する問題

TIFI 担当者が、これが即時の行動を必要とする非常に深刻な問題であると判断した場合（通常は非常に反倫理的または犯罪行為についての実際の懸念であるため）、担当者は事務局長、理事会、および／あるいは（適切な場合）国際リーダーシップ評議会と相談し、危機対応をします。理事会は研究所の法的責任を負っているため、この種の問題に対処するのは理事会であり、国際リーダーシップ評議会ではありません。